

地域を愛し、地域とともに生きる子の育成

越前町立四ヶ浦小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	4回
中学校区を単位とした協議会	2回
地域及び家庭への学校公開	11回(のべ)11日

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	24人
授業ボランティア(含:低ボラ)	10人
登下校支援ボランティア	6人
その他()	人

(3) 特色ある活動

テーマ「ふるさと教育 - ふるさと再発見 - 」

【 具体的活動内容 】

- ・3年生が、「子ども船乗り体験事業」として雲龍丸の乗船体験で、将来の夢を広げたり、海の仕事に関心や興味を持ったりするなど地域の漁業の良さを発見するねらいとした。
- ・5年生は、「子ども船乗り体験事業」で越廼漁港に行き、栽培漁業の学習を行ったり、学校に漁協の婦人部の方にきていただき、干しがれいの作り方を教えていただいたりする中で、地域の漁業や魚料理・食に対する関心や興味を高めることをねらいとした。

3年「雲龍丸乗船体験」

5月17日(火)に大樟の漁港から本校3年生の児童25名が、小浜水産高等学校の「雲龍丸」に乗り、3つのグループに分かれて体験を行った。出航の様子を見たり、中の様子を見せてもらったり、実際にひも(縄)を結ぶなどの体験をした。船酔いをする子もいたが、将来の越前町を担っていく者として、どの児童も初めての乗船体験に、夢も広がったのではないかと思う。



5年「干しがれい作り」

10月31日(月)に、5年生が干しがれいづくり体験体験で、地元漁協の婦人部の方から干しがれいの作り方を教えてもらった。1ヶ月前の9月30日(金)には、「子ども船乗り体験」で越廼漁港に行ったが、あいにくの雨のために出航できなかった。しかし、ヒラメやあわび、バフンウニなどの栽培漁業についての説明を受けたり、獲れたての鱈やシマダイ、カワハギなどの魚の裁き方を教えていただき唐揚げにして食べたりと、大変楽しく、充実した体験学習になった。



【 成果と課題 】

- ・「船乗り体験」は、今年度、初めての取り組みであった。海へのあこがれや夢を広げる良い体験であった。児童は、船のことや漁についての知識、水産に関する学校があることなど漁業に関する知識も増え、将来の「漁師」や「船長」への思いを強くしていた。
- ・船乗り体験は、天候や時期、費用などの心配がついて回る。今回、県の補助で体験ができたことや、社会科の学習とも関連しているなど、地域の漁業を振り返る良い体験学習であった。課題としては、学習内容と体験の時期とがうまく重なるように計画することである。